１．会議名	第３回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議
２．開催日時	令和４年10月14日（金）18:00～20:00
３．開催場所	出雲市役所本庁 くにびき大ホール
４．出席者	【出席】 山岡 尚会長、長岡 明生副会長、安部 宏委員、陰山 篤也委員、 加本 るい委員、田中　由美子委員、長瀬　理更委員、壷倉 浩平委員、 橋本 孝委員、原 久子委員、槇原 綾子委員、馬庭　伸行委員、 持田　幹男委員 【欠席】 板倉委員、伊藤委員、加村委員、來間委員、坂根委員、須山委員、 中澤委員、原(八)委員、三島委員、渡部委員 ≪事務局≫ 商工振興課長、産業政策課長、商工振興課職員（５名） 21世紀出雲産業支援センター職員（１名） 株式会社バイタルリード（４名）

５．議題

１　次期出雲市中小企業・小規模企業振興計画　骨子案について
２　その他

６．会議内容　※敬称略

■要約

・基本的な構成は現計画を踏襲する形で骨子案を提示した。
・具体的な施策の記載や強く押し出す施策について本会議で意見を募る想定であったが、出雲市の姿勢を示すよう各委員から要望を受けた。
・現在の経営課題をカバーできるような基本方針を盛り込むことを検討する。
・振興会議の位置づけについて再検討する。
・各施策について、わかりやすいKPIを示すよう委員から要望を受けた。
・次回の振興会議では具体施策の案も盛り込んだ上で素案を提示する。

■内容

委員　ご多忙の中第３回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議にご出席いただき感謝する。さて、10月半ばになり大変良い気候になっている。旅行するにもスポーツをするにも良いし、食欲の秋でもある。新型コロナウイルス感染症も収束はしていないものの随分と落ち着いてきた。ウィズコロナという生活スタイルも段々と定着してきたところ。人の動きも活発になってきており、今週からは全国の旅行支援策もスタートした。特に大社を中心とした市内でも観光客が増えてきて、観光に携わる方々も今までは大変だったが少し明るい兆しが見えてきたのではないかと思った。本日の新聞でも来年も旅行支援が何らかの形で継続されるという報道もあった。ますますこれから右肩上がりで観光部会、地域の経済も持ち直していくのではと期待しているところ。一方でウクライナとロシアの戦争がもう１つの大きな要素。エネルギーを中心として物価も高騰してきている。事業者は仕入価格が上がっている部分をなかなか価格に転嫁できない。人件費も今月から最低賃金が上がりそれにも対応していかなければならないということで厳し

い状況が続くが、なんとか頑張っていく必要があると思っている。本日はご案内の通り来年から始まる新しい出雲市中小企業・小規模企業振興計画の骨子について活発な議論をいただきたいと思う。

事務局　＜配布資料の確認＞　名簿不足があったため後ほど配布

＜１．次期出雲市中小企業・小規模企業振興計画　骨子案について＞

委員　本会議での議題は１つ。次期出雲市中小企業・小規模企業振興計画骨子案について、ご意見等ご協力をお願いしたい。それでは事務局から資料の説明をお願いする。

事務局　資料１概要の説明、資料 2～資料 4 についても説明

＜質疑応答＞

委員　資料 4 については個別具体な意見に対する対応。文章をどのようにするかということは次の段階かもしれないが、このような対応としたということで理解していただきたい。本日の本題は資料 2 と資料 3。これを見てどうと言われても難しいとは思う。資料 1 でどのように具体的に示すかが気になるところだが、肝になる第 4 章は前計画のそのままを流用しているという印象。次回どうなるかというところが一番の関心事である。第2章と第3章については前回説明のあった内容が一応反映はされていると思った。どこの文言がどうという細かな部分ではなく全体的に見てご意見を伺いたい。

委員　全体の作りはわかったが、一番やってもらいたいところは第 4 章。計画の方針と推進施策をご確認いただきたいということだと思う。資料 1 に沿って第 4 章のこの方針と施策について、まずは説明してほしい。それに対して委員の皆さんからご意見を伺う形式をとっていただきたい。

事務局　先ほどの説明では雑になってしまい失礼した。計画の方針ということが一番重要だが、前回の計画では新型コロナウイルス感染症や急激な円安等今までに想像がつかなかったようなことがこの 3～4 年の間に起きている。その後も新型コロナウイルス感染症流行による売上の減少や、生産年齢人口数の減少が確実に進んでいる。そういった影響を全体で乗り越えていくということを基本の柱と据えて、一気に進んでいるデジタル化、今後益々重要となってくる事業承継の問題、また創業支援、生産性の向上、出雲ブランド等があるが、先を見据えた部分もあった方が良いということを受け、基本方針は大きくは 3 つ。方針 1 は事業発展、経営基盤強化、成長促進支援といったこと。これについては p.49 に文言として書いている。中小企業はこれまで中小企業という大きさのメリットから、今までも色々なことが起きてきた中でそれぞれの企業が柔軟に対応してきた。新たな技術を取り入れたり、自ら開発したりして取り組んでこられた。その流れを大きく変えることなく市としては引き続き支援をしていかなければならないと思っており、この文言を書いている。そういうところを受け入れる基盤を確実に維持できる状態を保ちつつ、IT 技術を取り入れ生産性を向上して、さらには SDGs 等環境に配慮するような取組が益々必要になってくるためその支援をしていく。市としてはそのような支援をしていくが、p.49 の方向性の最後の段落に市だけではできないことがたくさんあるため関係団体と協力して取組を進めていくといったことを書いている。基本方針 2 は人材の育成、確保、定着ということでこれまで課題として掲げられてきた人材不足の問題や高校を卒業後県外へ流出していくことについてこれまで社会様態の減少傾向の 1 つの要因となっていた訳だが、これについても必ず対策をしていかなければならないということからこのような基本方針の題目にした。各企業には必要な人材獲得の努力はしていただき、市はそのサポートを行う。地域の会社には会社が

行っている仕事や目標、強みや魅力等を発信してほしいという意図から書いている。そして、最近は色々な働き方が徐々に増えてきた。副業も可能という会社も出てきたり、鳥取では週 1 副社長といった取組があったりと働き方が多様化して変化してきている。また、高齢者雇用や障がい者雇用の受入の問題もある。出雲市は外国人雇用が特に多い。様々な方の多様な働き方に対応していかなければならないため方針として掲げた。基本方針 3 は事業承継支援と創業支援について。承継されないままだと企業がなくなっていき地域経済が活性化せず衰退していく。ある程度の期間継続してこられた企業には個々で予算の見直しをしていただき、一番は親族承継で代々続けてもらいたいところだが、後継ぎ不在の場合は別の会社に事業を承継する等永続性のある対策をしたい。そういったことから事業承継も市として取り組む必要のある項目の 1 つとして掲げている。一方で既に行っている創業支援を継続することで経済の循環を維持する。創業支援についてあまり明示はしていないが、自由に創業し安定した経営を目指せるよう支援をしていく。事業承継の話に戻るが、ある程度の専門家が間に入らないと例え親族承継だとしても親子喧嘩になるケースもある。本日もたまたま事業承継の会議をした際もそのような話になり、その間に島根県事業承継引継支援センターの方が入ってもらうというような議論や関係商工団体の方にも話をして繋いでいる。このような形で色々な方が関わっていく必要がある。10 種あれば 10 通りのやり方があるとのこと。個別でのそれぞれに合った対応が必要であると認識している。島根県も事業承継の関係は予算化されており、その手助けを市としてもやっていきたいと考えている。基本方針はお話したような流れで、具体策は現在のところ現計画からスライドしてきた項目が多いため、施策という部分についてはなかなかない訳だが、必要であろうという項目は追加している。p.51 からの説明をしたい。

＜p.51～p.54 施策について説明＞

■基本方針 1

・経営基盤の強化、成長促進を図っていくことで広まってほしいというふうにしている。

・推進施策として 2 つ。デジタル化について。生産向上に向けたデジタル化等の推進、設備投資の支援ということで、今年度から出雲市中小企業者等デジタル化促進支援事業補助金等行い支援に取り組む。

・IT 産業の活性化ということで、現在チーム出雲（オープンビジネス協議会）を中心に色々と取組をされている。一緒になって出雲 IT 企業バスツアーといった就職向けのイベントや小学生向けのプログラミング教育を行っている。次の世代の働き手につながるような流れを作っていかなければならない。

・販路開拓の部分について、今までは地元に来る人だけを対象にしていた。コロナ禍を踏まえて予算を取ってやりたいという方も結構いらっしゃると聞いている。そういった意味でビジネスマッチングの機会を増やしていくといった販路開拓の推進は避けて通れないところ。昨日研究ビジネスマッチングの開催をされたところだが、こういった点にも市として協力していく。具体的には日々の中で現在 21 世紀出雲産業支援センターが間に入り、首都圏で出雲就職フェア等様々な取組を企画し実施いただいている。それについても継続して協力していく。

・市内中小・小規模企業への金融支援ということで、現在市としても直接株の貸付けはしないが資金調達に資するような貸付けの仕組みを作って取り組んでいる。信用保証料の一部補助もしている。

・ものづくり（製造業）企業の支援について、商工振興課としてはあまり取り組むことではないが、産業政策課と一緒にものづくりに関することについて色々と協力しながら取り組むこ

ととしている。商工振興課の取組としては小中学生ものづくり体験教室、企業見学ツアー。

・地域商業については現計画を踏襲した形。出雲市地域商業等支援事業費補助金は県の補助制度と協調して行っていた。その延長線上で取り組んでいくという考え方。

・地域内での資金循環の促進については具体的に表現することが難しい。市としてこれに特化した施策を打ち出しにくいところがある。啓発等その他諸々のことはできることがあるとは思っている。これは現計画に入っているということで今回にも入れているが、ご意見をいただきたいと思う。

・商工支援団体の支援についても現在行っている取組を継続するという意図で書いている。

・関係機関の役割分担と連携強化について。市だけでなく商工会や委員の方々、NPO 法人 21 世紀出雲支援センター、NPO 法人ビジネスサポートひかわ等色々な関係団体と取り組むということで、この 2 つの NPO 法人団体は合併する方向で協議は進んでいる。合併することによって色々な専門性の発揮をさらに期待するところ。それから人材確保の関係では、こちらに記載していないが出雲地区雇用推進協議会という団体と産業政策課が事務局で現在取組を行っていることもある。人材確保という観点からもその要素を踏まえたい。

・産学官金連携で、これまで医工連携を主に行っているが、それだけではなく今後は他の部門でも連携を行っていくということがこれまでの計画とは違う部分。

・積極的にチャレンジする企業を応援というのは、新たな環境の関係で SDGs やカーボンニュートラル等新たな取組を積極的に行う企業を市として応援していこうということで施策として掲げている。

■基本方針 2

・推進施策はこれまで行ってきたものがほとんど。新たな項目はない。

・県外学生・ＵＩターン就職希望者の市内中小・小規模企業への就職支援、子ども・若者への魅力発信、市内中小・小規模企業の人材確保支援。人材確保については先ほど説明した通り出雲地区雇用推進協議会の会員の企業訪問ツアーや高校への情報提供を引き続き行っていく。

・経営者の意識・行動改革への支援について、学べる場の提供、勉強会等の開催を取り組むことで引き続き支援を行っていく。

・働き方の多様化への啓発実施について。啓発活動が主になる。先ほども申し上げた外国人や高齢者や障がい者等を含めたワーク・ライフ・バランスが取れる職場環境を作っていただけるような啓発活動を市として行う。

■基本方針 3

・事業承継支援と創業支援についての施策は個別に細かく砕きすぎると専門性が必要になる話になるため、ざっくりとした書き方にしている。

・事業承継支援はご説明した通り市だけではなかなか難しいところがある。関係機関や専門家の方と協力して行っていく。出雲市事業承継推進協議会というのは、本日別で行った会議がまさにどうやって存続させていくかということがテーマだった。

・創業支援も創業の準備段階から起業してからの段階等色々な状況があると思われる。それぞれに応じた助成金を出し支援を行っていく。

・ビジネスサポートひかわにある斐川企業化支援センターについては、現計画でも書いてあることでそのままスライドしてきたところである。引き続きインキュベーションルームなど活

用をしていただきたいと思っている。

事務局　基本的には現計画のままになっている部分がほとんど。1-11 は新たに盛り込んだもの。あと、基本方針 1 の推進施策の 1-1 からの項目の順番は 1-1 に生産性向上や IT デジタル化に関する項目を入れる等少し変えているところがある。どれを重要視して順番を変えていくのかは皆様で議論していただきご意見を伺いたい。何度もお伝えしたことではあるが、施策については現計画とほぼ同じ内容を書いている。また、取り組めなかった部分は若干削っている箇所もある。この出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議の中でこの推進施策について特に議論いただき、ここはもう少しこのような取組をしたい等、今までの課題も含めた形でご意見をいただけるとありがたく思う。

委員　この振興計画の肝となる第 4 章の方針と施策について今の考え方の説明があった。ご意見等お願いしたい。

委員　前回もお話をし、ちゃぶ台をひっくり返すつもりは毛頭ないが、会長も事務局も前回の計画の焼き増しであるという発言だったと認識した。KPI にしてもまち・ひと・しごと総合戦略の計画の方がまだ決まっていないので設定できないという。すなわちそこから目標数値も流用するということ。お忙しい中委員の皆さんもこの振興会議のために集まっている。この会議がなかったとすればこの計画の骨子案の結果はどうだったのか。市の予算で既に決定している事項を並べている。今長引く不況の中で中小企業は厳しい状況。前回の会議時点でも新しいもの、具体的な課題や意見というものはアンケートで書かれている範囲にしか答えがないと話をした。それ以外の新しい意見というものはなかなか出てこない。これを計画に加えてほしいというレベルの話ではないが、例として出雲市は全国に誇る出雲大社という観光の切り札がある。これを市がどのように考えているのかが聞きたい。また、出雲市も高齢化社会になり交通手段である市内のタクシー事業者も非常に困っている状況。高齢者の足を確保する施策等具体性がない。全部課題でこれを取り組むと書いてあるが、具体的に何をやるかをこの会議で決めるのではないのか。もしこの 2 回目の計画がなくてもおそらく市が予算を付けて前回の計画での取組を踏襲してそれを繰り返して行っていると思う。言い方は乱暴だが、この計画、またはこの会議がなくても同じことはできるように感じる。この会議があって、委員として初めてきちんと取り組めたと感じるようなことが今のところない。

事務局　ここにはあえて前回同様としている。この場で皆様からご意見をいただいた上で作り込んでいきたいと考えている。現計画ではなかった観光産業についての具体案をこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画の施策に盛り込むべきということであれば、次回の素案に盛り込む方向で検討する。高齢者の移動手段といった点とこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画とどう繋がるかといったところは骨子案の段階ですぐにお答えできない。本日は前回の計画を踏襲した形ではあるが、文言の表現や内容を含め確認いただき、追加すべき点や見直すべき点等ご意見を伺いたい。

委員　別の角度から言うと、市内企業は 3 重苦となっている。コロナ禍から始まり、ロシアのウクライナ侵攻があっての原価高となっている。多くの場合人材が不足している。物もない。こういったところは非常に目立つ共通項であると感じている。しかしながら全国で見ると余裕のあるところはある。余裕のあるところから不足しているところへのマッチングをする。会長がおっしゃっていた中小企業に寄り添った支援をするということであれば、やはりモノや人といった経営資源のマッチングというような発想、何としても中小企業を支援すると感じられるような情熱がほしい。

事務局　実際に雇用調整助成金があって雇用が維持されている部分もある。今後この雇用調整助成金がいつどのような形でなくなっていくのか、どのような範囲に狭まって残るのかもわからない。ただ、人材の流動性は非常に課題。学び直しの機会も重要と叫ばれている状況の中、そういった視点が必要ということであれば市として可能かどうかということも含めながら振興施策に反映することを考えていきたいと思う。

委員　方針、推進施策は現計画を踏襲したとの説明だが、第 3 章の課題整理をしたら結果的には前回と同じような柱立てになったということではないのか。そしてこれに加えて新しいものとして積極的にチャレンジする企業を応援するという項目を追加したということだと理解していた。計画の焼き増し、コピーしたということではなく、今回の調査を分析し課題を整理した結果、結果的に同じになったということで、項目ごとの中の文言について不足している部分があれば何か付け足したいとか、これは不要なのではないかとか、今の新しい課題に対応するような文言にすべきじゃないかということをこの会議では考えた方が良いのではないかと思う。

事務局　言葉足らずの部分もあった。実際に現計画と比較すると、今回状況調査を行い課題の洗い出しをしながら、現計画の進捗と検証もして、結果的にこの大きな 3 つの基本方針自体が今のところ大きく変える必要がないと事務局としては考えた。そのためこのような形としてお示しした。推進施策についてはとりあえずのたたき台として現計画のものをお示しした。本当は事務局から提案しながら進めていきたいところだが、次回この課題の部分からこういった取組ができるであろうということについて記載しようと思っている。今回のご意見の中では先ほどもあったように、積極的にチャレンジする企業を応援するという項目だけ追加した形でお示しした。本日今までの課題等含め委員の皆様からのご意見をお聞きし、その点を含め課題から見えてきた部分と推進施策にも盛り込んだ上で素案として次回お示しさせていただきたい。

委員　大きな柱立ては大きく変わらないかもしれないが、現状の課題を踏まえた上で、施策となると当然以前のものとは変わってくると思う。今取り組まなければならない事柄はあると思うが、現段階の案ではなかなかそれが見えてこない。予算化されないとはっきりやるとは言いにくいかもしれないが、市から全面的に取り組みたいという意気込みや意欲が感じられないということは委員の皆様も感じているのではないかと思う。それをどこまで表現できるかどうか。

事務局　正直今取り組んでいる内容の部分だけを羅列しているだけになっておりお詫びする。緊急経済対策等一時的に行っている取組については今後も同じようなことができるかどうかの見通しが立たないこともあり、この中には盛り込んでいない。しかしどの事業も重要なものと考えている。また、今課題から落ちている部分で今回お示しできなかったが、その中にも重要な部分があったかもしれない。準備不足な面があり申し訳ない。ただ、先ほどおっしゃっていたように推進施策の項目名は同じだが取組の内容自体は変わってきている。まだ変わる部分もあると思うので、次回の素案では記載をきちんと考えお示ししたいと思う。どの施策も商工振興課と産業政策課が所管になる。地場企業の支援については今後今まで以上に行っていかなければならない。皆様から様々なアイデアをいただき新たな事業としてできる限り応えていきたい。

委員　3 つ基本方針が示され、その方針ごとに施策があってわかりやすくなったと思う。しかしどれも具体性がなくどこまでの予算を投入していくのかという記述もない。確かに挙げられた施策が全部できたら良いと思うが、限られた予算をいかに効率的に活用できるかが重要。出雲市総合振興計画が最終目標だと思うが、そこに向けて理想の姿と現状のギャップからどこを変えていけば一番地域にとって効果的なのかがわかると良い。全部が漠然と地域にとって良さそうに見えるが、出雲市として目指していく理想の姿に近づくためにどの施策に注力するのかがわか

ると良いと思う。

事務局　重ねてになるが今回お示しした施策は現計画のものを掲げている。やはり出雲市がどういったところに力を入れていくかという『出雲らしさ』を表現するためには記載内容を工夫しなくてはならない。例えば P.51 の生産性向上のデジタル化の推進については、出雲市としても力を入れていかなくてはならない。先ほどチーム出雲（オープンビジネス協議会）という説明もさせていただいたが、IT 産業活性化も非常に大事になってくると思う。販路開拓の推進については出雲ブランドも含めて今後も重点的に取り組まなくてはならない。1-11 で積極的にチャレンジする企業を応援という項目を追加しているが、脱炭素化といった取組を今後市としてどのように取り組んでいくかを詳しく方向性を示せるような表現にしなければならないと思っている。先ほど観光の視点でのご意見があったが、出雲市にはおっしゃるように出雲大社を中心に観光資源がある。ここをこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画の中でも盛り込むべきということになれば、推進施策の中でどのように観光資源と連携した取組をすべきかを検討しなければならない。

委員　内容というより書きぶりの問題について。基本方針があって、それをブレイクダウンした形で推進施策という流れになっているが、施策の内容を見ても伝わらない。例えば今回新たに追加した 1-11 の文章を見ても、「SDGs やカーボンニュートラルへの取組、デジタル化などをビジネスチャンスと捉え、新規事業や事業転換、事業拡大などの積極的な取組にチャレンジする市内中小企業・小規模企業を応援するための支援を行います。」とある。どういう方法をもって支援するのか。そこを示すのがこの計画では。具体的に何をするつもりなのかさっぱりわからない。1-7 を取ってみても一体どういう形で啓発・PR に取り組むのか。全てがさらっと流している印象。推進施策まで読んでも具体的に何をするかということがわからない。現計画の時に推進体制にワーキンググループが出てきていたが今回は入っていない。最終的にどのような体制で行うのかもわからない。この推進会議と推進体制の関連性も見えない。

事務局　書きぶりについては具体的に書けるところは書く。推進体制については前回の会議でもモデル事業やワーキンググループのあり方について、当初の狙い通りにはならなかった。ただ事務局としてはこの出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を通じてご意見をいただき、事業を盛り込み、毎年事業を進めていく中でしっかりとチェックしていただくことが推進体制における出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議の役割ではないかと思っている。p.55 の図で説明が足りないところがあるかもしれないが、このような形で進めたいと思っている。曖昧な表現はできる限り具体的な表現に修正したい。

委員　今回は出雲市中小企業・小規模企業振興計画の骨子を見ていただくという場なので、第４章については細かい文言までは十分に検討されたものではないと認識している。ご意見のように次期計画ではどういった取組をするのかをしっかりと書き込んでいただきたい。また、推進体制の件だが、前回の会議で出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議のあり方について見直していただきたいと私からも申し上げた。p.55 の図を見ると出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議が行政機関や商工支援団体等々と同列の階層のような位置づけになっている。あるいはそれ以上に中小企業・小規模企業を支えるような感じで描かれているが、私は違うと思っている。壷倉委員がおっしゃったように、出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議はこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画の進行管理、チェックする第 3 者の視点を持った組織として考えているため、この輪の中には入らないと考えている。その辺りの意識統一をしていただかなければならない。現計画の策定の際は皆様が集まってプレーヤーとなり皆様でモデル事業を行い、

商業振興に取り組んでいこうという意気込みだったと伺った。現在と今後の位置づけは違うのではないかと思う。きちんと整理をしていただきたい。

事務局　ご指摘いただいた部分について修正する。

委員　前回も話が挙がった部分だが、資料 1 の p.37 は現計画の施策の振り返りになっている。その①目標の達成状況では何か目標値があって達成値があるという定量的な評価。②推進施策の実施状況及び評価・検証は定性的にこのような取組を行ったという評価と認識している。今回も各推進施策について具体的に何をするかが決まって、その後に目標数値が出てくると思う。各推進施策をきちんと評価できるような、わかりやすい目標値を設定していただけたら評価もしやすいかと思う。前回の振り返りを見ると KPI の定量的な項目が各施策 1 つずつで判断できるのかわかりにくいと思う。前回のものを基にしているならば、目標数値はもう少し工夫して、初めて見る方でも振り返りとして確認するときに理解できるような形にしてもらいたい。

委員　まさにその通り。文章として書き切れない内容はおそらく目標数値を何の項目で設定するかが重要。それによって何を重点にしているかが見えてくる。そこを現状から将来に向かってどういう風に持っていくかで出雲市としての方針が表れると思う。きちんとした目標数値を掲げていただきたい。現計画はかなり曖昧だったが、ここが肝だと思うので検討をお願いしたい。

事務局　１つ１つの推進施策ごとに数値目標が設定できると一番良いが、全てに設定できるかは約束できない。しかし、施策と目標の数値目標がリンクするような形は非常に大事。極力アウトプットではなくアウトカムという形にできればと思っている。

委員　出雲市民ではないので発言に責任が持てないという前提で意見をしたい。この出雲市中小企業・小規模企業振興計画は松江市に置き換えても全く違和感ない。方向性というものはどこも変わらないと思うが、『出雲らしさ』が欠けているのではないかと思う。今回この出雲市中小企業・小規模企業振興計画の上位計画に出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」がある。この計画では「ともに」がキーワードになっているはず。産業振興に関するこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画の中でどのようにそれを達成していくためには、出雲市独特の特長を捉えながら組み立てていくという方法が計画を策定するにあたってのプロセスとして必要ではないかと思う。出雲市は外国人が多く、他の市にない活気があると感じている。観光で賑わっているところにも出雲らしさを感じる。ともに生活する中で外国人との言葉の壁を IT でどう解決するかといった発想もある。よりわかりやすいものになるのではないか。

事務局　現計画の中でも推進施策に出雲らしさが見えないというご意見をいただいていたのも事実。次回お示しする素案に盛り込めるように取り組む。

委員　商売でも会社でも創業者は大変ではあるが1つのカラーができており、2代目は難しい面もある。この出雲市中小企業・小規模企業振興計画も 2 代目で策定には苦労すると思う。オリジナリティを出そうとしても、初代の影響や残像があったりする。その中で 2 代目としてどういった特色を出せるかどうか。事務局としては苦労されると思うが素案作成に向けて頑張っていただきたい。もう 1 点、個人的には少し危機感がないように感じる。来年度より 5 年間でまずやるべきは新型コロナウイルス感染症でダメージを受けた部分のカバーやフォローをどうするかということがないといけないと思う。いきなりそれを DX で解決しようという話のように取れる。書きぶりやこの基本方針の 3 つの柱立てにしても安定速度に達したときにはこれで良いと思う。まずは痛みを受けている部分への対応をどう考えているのか、市としての考えを示す表現が必要だと思う。また、人材不足についても高校生や教育の話だけではなく現実に明日の人が足りないといった切迫感を基本方針の部分で謳われていないと、この計画を世に出した時に浮世離

れしていると言われかねない。現状認識と目の前の対応ももう少し入れていくべき。特に観光はダメージが大きい。そこに対応する姿勢はやはり必要だと思う。皆様も言っている『出雲らしさ』にも繋がる話。目の前にある切迫した状況は避けて通れないものだと思う。何ができるかどうかは別として、そういった認識で取り組んでいるという姿勢を見せないとスタートラインをどこに立てているのかという話になる。一旦着地して考えてみたらいかがか。

事務局　おっしゃる通り。課題の中ではコロナ禍と物価高は特に重要視している。推進施策に入っていく中では、確かにその認識を記載した箇所がない。記載もした上で出雲市としての心構えややる気をどこまで見せていけるかというところが重要と思う。

委員　1 つ気になったことがある。この出雲市中小企業・小規模企業振興計画は商工振興課の計画ではない。出雲市の産業振興、中小企業・小規模企業に取り巻く問題をどうするかを考える計画。観光もそうだが他の部局に関係することも出てくる。その辺りについてあまり取り組む意識がないという印象を受けた。

事務局　一部分は別の部署のものもあり、特に市民活動支援課で取り組んでいるワーク・ライフ・バランスについては入れている。現計画では観光に関することに触れられていなかったこともあり、入れていなかった。先ほど『出雲らしさ』を示していく上で観光という観点も非常に重要であるとご意見をいただいたため、項目を追加するようにしたい。経済観光部以外の部分で地域環境部の分野の SDGs、脱炭素も盛り込んでいる。また、壷倉委員がおっしゃっていた高齢者の移動手段に関する視点も入れる必要があると感じた。経済の視点からどのような形で捉えるべきかといったことが課題になるが、交通についても考える必要があると思った。

委員　先ほどからなぜ『出雲らしさ』にこだわるかというと、地方創生やまち・ひと・しごと創生に基づいてこの出雲市中小企業・小規模企業振興計画を作っていると思うが、出雲市の人口減少を食い止めるために他市町村から移住してきてもらわなくてはいけない。定住や雇用、産業等縦割りでなく全体で取り組んでいかなければならないことだと思う。まず出雲市の知名度を上げていかなくてはならないが、この計画を出したときに出雲にはこんな特色があるのかと思えるような他との差別化ができるかというとそうは思えないと感じた。『出雲らしさ』とは誰が決めるのか。それは上位計画である出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」に定めてあるのか。または市が決めるのか。

事務局　『出雲らしさ』の定義は難しい部分ではあるが、関係団体含め皆様に納得してもらえるものが『出雲らしさ』ではないかと思う。そこをどのように盛り込んでいくべきか。出雲ブランド商品や『おいしい出雲」といった記載はあるが、もっと踏み込んで出雲の強みをどう表していくか検討する。

委員　この計画でいう『出雲らしさ』は出雲の出雲大社とか出雲の特産物とかではなく、出雲市はどういう方向に進んでいきたいのかといったところだと思う。それはこの出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議等で色々なアイデアが出た中で、皆さんが良いと思ったものを採用していくような形か。例えばこの中で特に DX に力を入れるということを決定したらそこに進んでいくということで合っているか。

事務局　推進施策の中でどこに力を入れるのかという話だと思うが、この出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議の意見も踏まえて市で決定していかなくてはならない。DX の話も出たが、今の時代から見て重要課題だと思っている。具体的な取組を掲げることがこの場ではできないが、どういった形で取り組めるか検討し明記していきたいと思う。

委員　この会議でそういったアイデアを出した方が良いならば、私は IT 化や DX の方向に重点的に

取り組んでいく方が良いと考える。

委員　基本的に市が考える計画。ご意見を出していただく会議だが、最終的に決めるのは市になる。

委員　推進施策ｐ.52 の基本方針 1 の 1-7 地域内での資金循環の促進についてお聞きしたい。私自身地域通貨等の事業のサポートをしている関係で、地域内の資金循環というものがどういった施策になるのかと非常に楽しみにしていた。今回の骨子案の内容を見る限りでは市内の中小企業・小規模企業間での受注発注による市内での資金循環となっている。それで現計画の施策推進の評価で P.39 にある内容に 1-8 地域内での資金循環の促進とある。実際に行った取組を見ると、キャッシュレスポイント還元消費喚起事業や商品券事業の物販、要するに個人の消費で各小規模事業に還元ポイントを使ってもらうような施策をしたと令和 2～3 年度でされており、今年度もされていると思うが、今回の新しい施策の中にはこのような消費者のポイント還元事業のような取組は取り入れない方向なのか。

事務局　現在コロナ禍の中、国の交付金を受けて事業を進めている。今後は消費喚起の地域内通貨のような取組も大事かと思うが、当然財源等がないとできないこと。現段階ではそこまで触れられるところまでに至っていない。ただ、商工団体協議会からもご要望をいただいたところ。今はこういった書きぶりにしているが、何かできないか検討したい。

委員　どこの市町村もこの資金循環ということで、町内でお金を使ってもらい、他市町村では使えずその町内での事業所等でお金を使ってもらう施策をして、外にお金が出ていかないような形で資金循環という目標を掲げている。他の事例を参考に取り入れていただければ今に沿った形にして取り組めるかと思った。

委員　どれをとっても予算がないとなかなかできないこと。市は意気込みを見せてほしい。大体ご意見は出たかと思う。これから具体的な表現になって色々とご意見も出てくると思うがまたメール等でお寄せいただけたらと思う。

＜２．その他＞

・次回の会議について

11 月下旬までのところで開催予定

以上